

Y14c 高校生天体観測ネットワーク (Astro-HS) の2002年度活動について

鈴木 文二 (三郷工業技術高校)、小田桐 茂良 (青森南高校)、直井 雅文 (越谷北高校)、矢治 健太郎 (かわべ天文公園)、篠原 秀雄 (三郷北高校)、Astro-HS 運営委員会

われわれのネットワークは、1998年のしし座流星群を機に発足した。昨年度までは、しし座流星群とともに月食、木星食というイベント性の高い天体現象をテーマとして取り上げて来た。今年度は、日本におけるしし座流星群の大出現の期待が低いこともあり、テーマの設定について、大きく方針を転換し、天文部の合宿や日常的な活動に視点を置いたテーマ設定を試みた。イベント性のあるものとしては6月11日の部分日食を取り上げ、予報計算と観測の2つを柱とした。さらに、天文部の合宿に視点を置いたペルセウス座流星群観測会と、日常の活動として一般的な太陽表面現象観測会を設定した。部分日食観測会においては、天候その他の悪条件によりデータ報告数が20グループ程度にとどまった。ペルセウス座流星群観測会の報告数は30グループ程度、太陽表面現象観測会については、参加グループ数は少数であったが、夏休み中のほとんどの日について報告があった。また、いくつかのグループでは、コロナドフィルタを使った観測も行い、可視光画像とともにHアルファによる画像も送られてきている。年度末には昨年に引き続いて全国フォーラムを開催し、今年度活動報告、参加グループによる研究発表、次年度観測テーマの説明などを行う予定である。それまでには、すべての観測会のアーカイブを完成し、webその他のメディアを利用して公開する。また、今年度の活動について、アンケートを利用して参加グループからの意見を集約し、一連の活動における教育的効果についての評価を行い、その結果を年会で報告する。なお、2003年度は、水星日面通過、火星大接近およびペルセウス座流星群の3つを観測テーマとする。